

ニュース JAFIC EYE №206

5月のマイワシ・さば類・マアジの漁況について

1. 太平洋側のマイワシについて

○道東沖棒受網:5月21日に花咲港に棒受網による初水揚げがあった。5月28日～6月3日の1週間の合計漁獲量は142.5トン、1日1隻当たり漁獲量は8.4トンで、前年同時期を下回った(前年同時期は269トン、1日1隻当たり12.2トン)。釧路水産試験場による調査でも道東海域のマイワシ豊度は前年より低く、前年に比べると道東沖まで北上している群は多くないものとみられる。

○銚子港:北部まき網の漁場は塩屋崎沖～犬吠埼沖に形成され、1日1隻当たり水揚量は113トンで、4月より増加した。銚子港の5月の水揚量は4月及び前年を上回った(表1)。サイズは体長16～17cmモード(2歳)で20cm以上(3歳以上)も混じった。体重は50～60g主体であり、体重80～90gの割合も増加した(図1、2)。

表1. 銚子港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	36,095.2	39.0	21,323.0	33.0	0.6	0.8
5月	33,159.7	38.0	42,424.4	43.0	1.3	1.1

(出典:おさかなひろば)

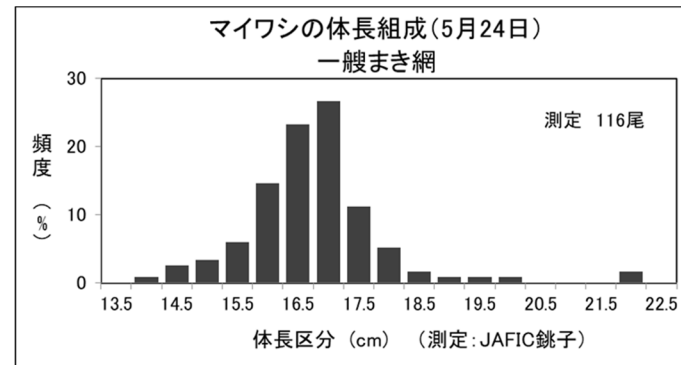


図1. 5月24日銚子港水揚のマイワシ体長組成

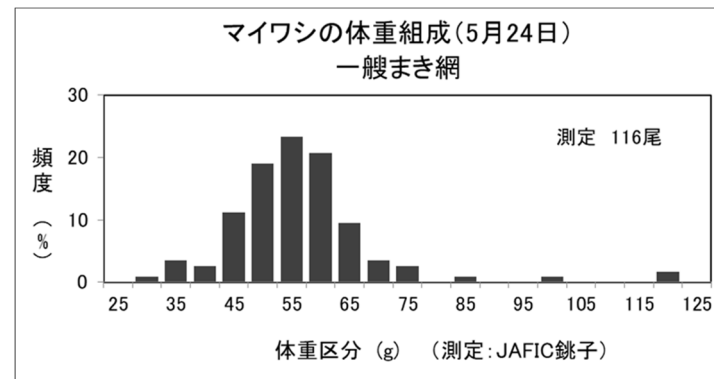


図2. 5月24日銚子港水揚のマイワシ体重組成

○石巻港:5月の水揚量は4月及び前年を上回った(表2)。体長は12.5～13.5cm(1歳)主体(図3)、体重は18～22g主体であった(図4)。

表2. 石巻港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	2,905.5	32.0	3,388.7	31.0	1.2	1.0
5月	2,141.1	31.0	3,572.8	30.0	1.7	1.0

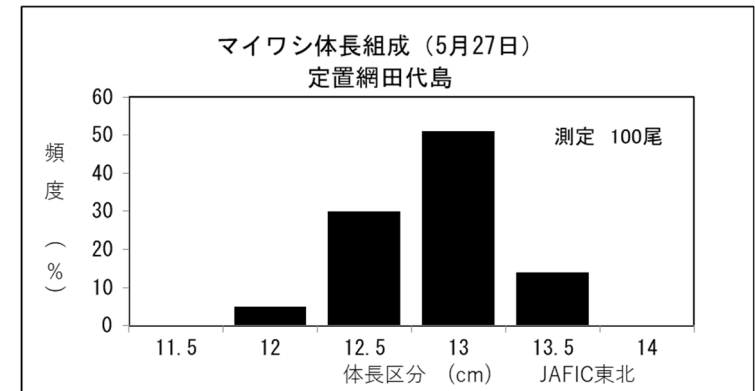


図3. 5月27日石巻港水揚のマイワシ体長組成

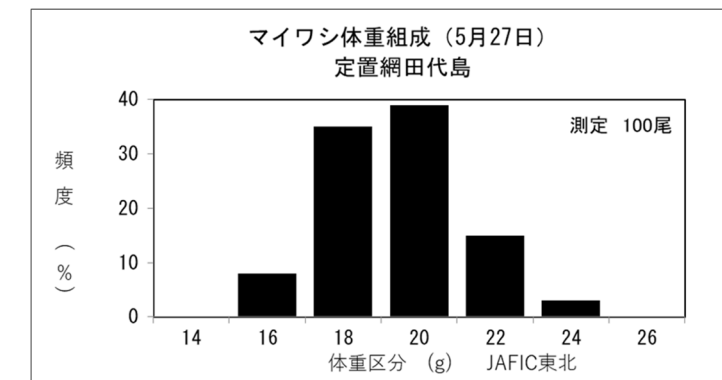


図4. 5月27日石巻港水揚のマイワシ体重組成

2. 日本海側のマイワシについて

○境港:5月の水揚量は4月及び前年を下回った(表3)。体長は17.5～18.5cm(1歳)主体(図5)、体重は70～80g主体であった(図6)。体重100g以上のものは鮮魚向けに出荷されているが、大部分は凍結して養殖餌料向けに出荷されている。

表3.境港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	3,995.6	44.0	7,363.0	46.0	1.8	1.0
5月	3,857.0	52.0	2,355.0	61.0	0.6	1.2

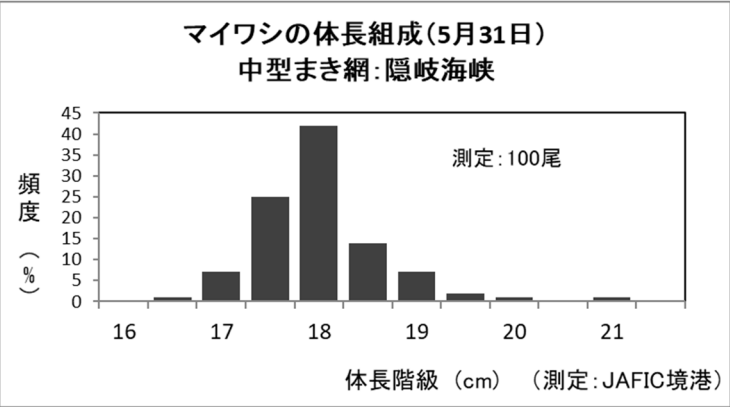


図 5. 5 月 31 日境港水揚のマイワシ体長組成

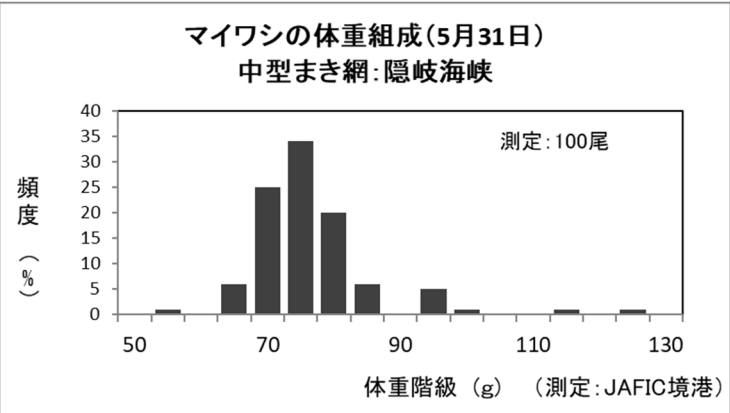


図 6. 5 月 31 日境港水揚のマイワシ体重組成

3. 太平洋側のさば類について

○石巻港：5 月の水揚量は 4 月及び前年を上回った(表 4)。ほとんどが底曳網による水揚物で定置網による水揚物も混じった。体長(尾叉長)は 26～28cm と 31～33cm にモードがあった(図 7)。

表 4. 石巻港におけるさば類の水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	547.0	82.0	1,641.3	80.0	3.0	1.0
5月	4,183.3	91.0	5,684.5	78.0	1.4	0.9

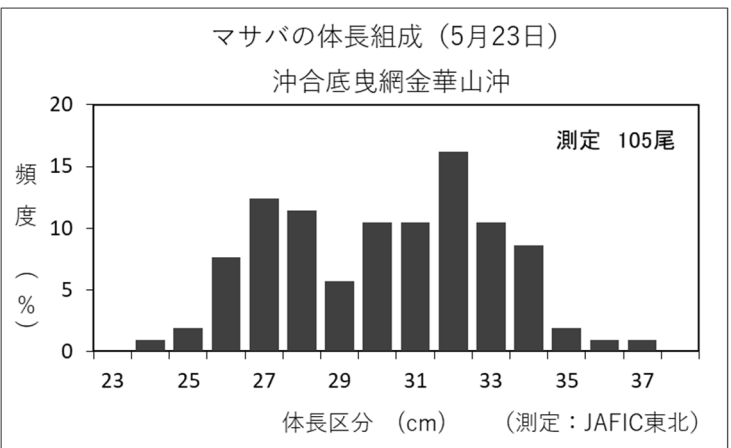


図 7. 5 月 23 日石巻港水揚のマサバ体長組成

○奈屋浦港：5 月の水揚量は 4 月を下回ったものの、前年を上回った(表 5)。価格は 4 月を上回り、前年を下回った。銘柄は小サイズのみであった。

表 5. 奈屋浦港におけるさば類の水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	6,396.5	74.0	7,797.7	78.0	1.2	1.1
5月	1,092.2	104.0	1,297.8	96.0	1.2	0.9

○北浦港：5 月の水揚量は 4 月を上回ったものの、前年を下回った(表 6)。体長は 20～21cm 前後、体重は 120～160g 前後が主体であった。前年は体長 30cm 以上のものが混じったが、今年は混じりが少なかった。

表 6. 北浦港におけるさば類の水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	3,724.1	65.0	388.0	98.0	0.1	1.5
5月	958.7	71.0	477.0	69.0	0.5	1.0

4. 日本海および東シナ海側のマサバについて

○松浦港：5 月の水揚量は 4 月及び前年を下回った(表 7)。東シナ海中南部海域と対馬海域主体の操業であった。体長は 29～30cm 前後(1 歳)、体重は 300～380g 前後が主体であった(図 8、9)。

表 7. 松浦港におけるマサバの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	1,045.4	160.0	1,285.5	119.0	1.2	0.7
5月	1,807.0	96.0	604.0	94.0	0.3	1.0

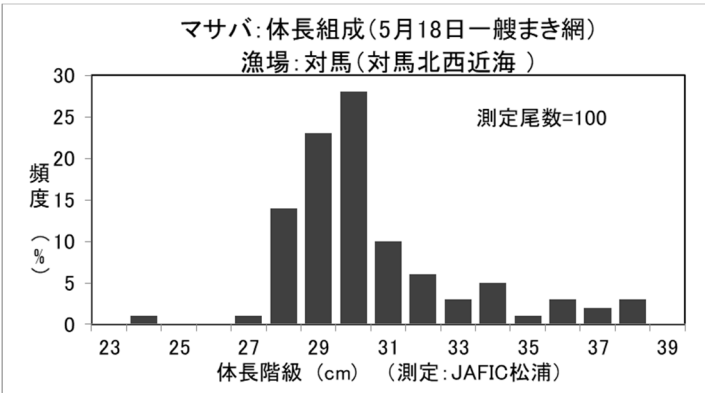


図 8. 5 月 18 日松浦港水揚のマサバ体長組成

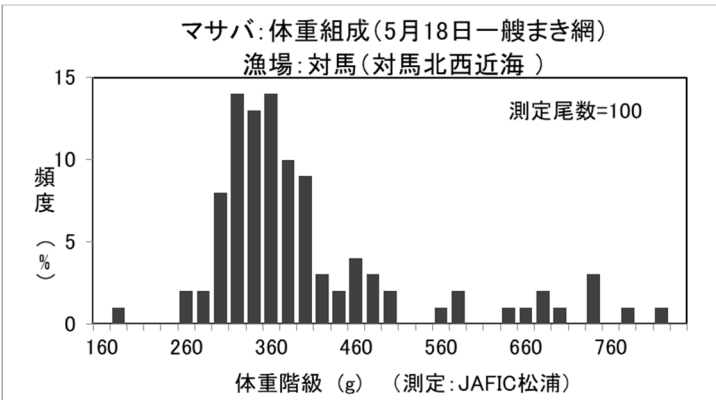


図 9. 5 月 18 日松浦港水揚のマサバ体重組成

5. 日本海および東シナ海側のマアジについて

○境港： 5 月の水揚量は 4 月を上回ったものの、前年を下回った(表 8)。漁場は浜田沖～隠岐海峡周辺で、中小型まき網漁業による水揚げが主体であった。魚体はタネ銘柄(体長(尾叉長)12cm 前後)主体で、主に凍結して餌向けに出荷されており、価格が大幅に下がった。

表 8. 境港におけるマアジの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	2,158.2	68.0	396.0	140.0	0.2	2.1
5月	3,105.5	78.0	1,873.5	77.0	0.6	1.0

○松浦港： 遠洋まき網漁業を主体として、5 月の水揚量は 4 月及び、前年を下回った(表 9)。漁場は主に東シナ海中南部海域主体の操業であった。体長は 23～25cm(2 歳)主体、体重は 180～220g 主体であったが(図 10、11)。日によって体長 17～20cm(1 歳)、体重 60～100g も混じった。

表 9. 松浦港におけるマアジの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
4月	1,258.4	265.0	2,309.8	188.0	1.8	0.7
5月	3,477.7	190.0	1,261.5	202.0	0.4	1.1

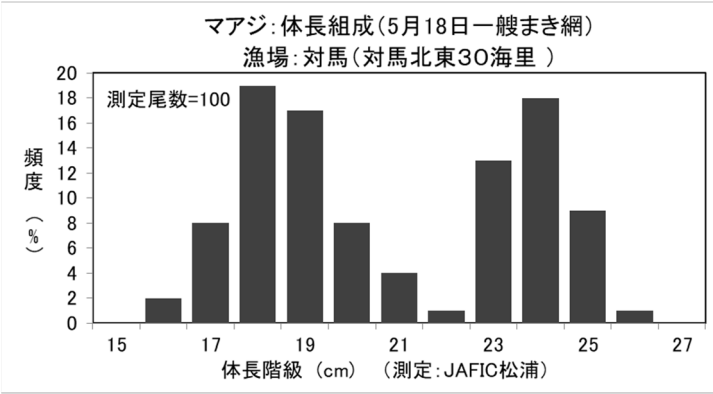


図 10. 5 月 18 日松浦港水揚のマアジ体長組成

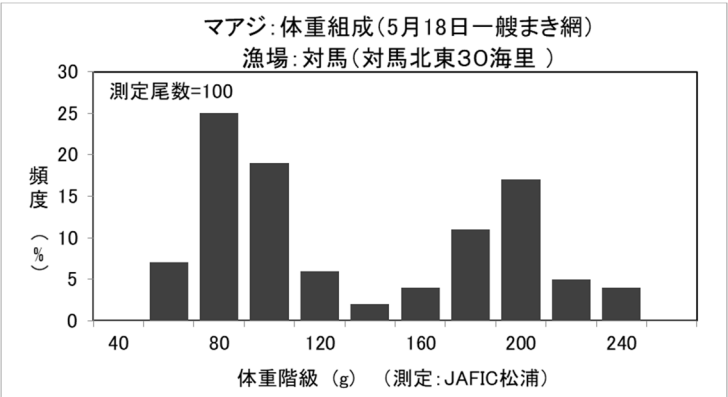


図 11. 5 月 18 日松浦港水揚のマアジ体重組成

6. まとめ

太平洋側のマイワシは、今期は塩屋崎沖～犬吠埼沖に漁場が形成され、銚子港を中心に小名浜港や波崎港にも水揚げされた。1 日 1 隻当たりの水揚量は 4 月よりもまとまった。北部まき網漁業による水揚物は体長 16～17cm 前後、体重 50～60g 前後の 2 歳魚が主体であった。日によって体重 80～90g 以上の 3 歳魚以上も水揚げされた。6 月以降は 3 歳魚以上の割合が増加し、マイワシ魚群がさらに北上を進めるため、漁場が北上すると考えられる。道東沖棒受網は 5 月 21 日に花咲港で初水揚げがあり、その後 6 月上旬にかけて釧路港・花咲港・根室港で水揚げがあった。

日本海側のマイワシについては、隠岐海峡周辺で操業が続いた。体長は 17.5～18.5cm(1 歳)主体であり、体重は 70～80g 主体であった。100g 以上は鮮魚向けに出荷されているが、大部分は凍結して養殖餌料向けに出荷されている。

太平洋側のさば類については、北部まき網漁業ではほとんど水揚げがなく、三陸海域の底曳網や定置網による水揚げが中心であった。石巻港の沖合底曳網では体長 26～28cm と 31～33cm にモードがあった。三重県奈屋浦港への中型まき網漁業による 5 月の水揚量は 4 月を下回り、小サイズ主体の

水揚げであった。宮城県北浦港の 5 月の水揚量は 4 月を上回り、水揚物の体長は 29～30cm 前後 2 歳以上) 主体、体重は 300～380g 主体であった。

東シナ海では東シナ海中南部海域を中心にマサバが漁獲された。水揚量は 4 月及び前年を下回った。水揚物の体長は 29～30cm 前後(1 歳)、体重は 300～380g 前後主体であった。

日本海側のマアジは浜田沖を中心に大中型まき網漁船による漁獲があった。水揚量は 4 月を上回ったものの、前年を下回った。魚体は「タネ」銘柄(尾叉長 12cm 前後)主体で凍結餌料向けの出荷が主体であり、価格が大幅に下がった。

東シナ海では東シナ海中南部主体に操業が行われ、水揚量は 4 月及び、前年を下回った。水揚物の体長は 23～25cm 前後(2 歳)主体で体重は 180～220g 主体であった。

山陰まき網では 6 月以降マサバ・マアジの水揚量は減少傾向にあり、隠岐海峡周辺操業の中型まき網によるマイワシ水揚量が増加している。東シナ海では中南部海域を主体に遠洋まき網漁業によるマアジ主体の水揚げが続いている。

(水産情報部)